

# 多連結可能な共培養容器

連携先機関(担当者等)： 伸晃化学株式会社

キーワード 共培養、多連結、UniWells、NICO-1

## 内容

SDGs対応目標

SUSTAINABLE GOALS  
DEVELOPMENT



細胞の培養・観察には培養容器が必須であり、種々のプレートが用いられている。中でも、細胞間相互作用を観察するためには、従来、細胞の共培養容器には縦方向に連結するタイプのセルカルチャーインサート（一般名）が用いられてきた。しかし、縦方向に連結する特性のため、下側容器の細胞しか観察することができなかった。横方向（水平方向）に連結する培養容器の必要性を実感し、共同開発先を模索したところ、地元の企業である**伸晃化学株式会社**（石川県金沢市）と共同で開発することが出来た。伸晃化学株式会社は、医薬品容器を各種製造する企業であり、研究用製品を開発できるノウハウや工場設備を有している企業である。同社と共同で連結式共培養容器を開発し、**本邦・米国・カナダ・EU・中国・台湾・オーストラリア・シンガポールにおいて特許を取得**した。開発した製品は、本製品のために設立された大学発ベンチャー企業である株式会社ギンレイラボが卸元として独占販売し、現在では、富士フィルム和光純薬株式会社（製品名UniWells）、エア・ブラウン株式会社（製品名NICO-1）を通して国内外の理化学機器販売企業へ販売している。エンドユーザーは、国内外の大学・製薬企業・バイオ企業研究所であり、本容器を利用した革新的な医学・バイオ研究に役立っている。



伸晃化学株式会社  
Shinko Chemical Co., Ltd.



開発製品 (UniWells・NICO-1)

## 関連する特許情報

特許第6364258号  
特許の名称：培養容器  
特許権者：金沢医科大学、伸晃化学株式会社

## 関連する論文情報

- Takeo, S. et al., *Micromachines*. 2021, 12(11), 1431; <https://doi.org/10.3390/mi12111431>
- Takeo, S. et al., *Biological and Pharmaceutical Bulletin*. 2018,41(9),1311; <https://doi.org/10.1248/bpb.b18-00223>
- Kagenori, I et al., *Molecular Oncology*. 2023 <https://doi.org/10.1002/1878-0261.13484>



島崎 猛夫 准教授

金沢医科大学 総合医学研究所 バイオ・デジタル応用研究分野

